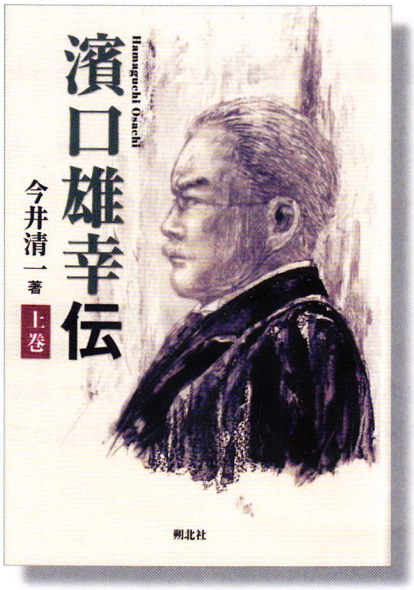
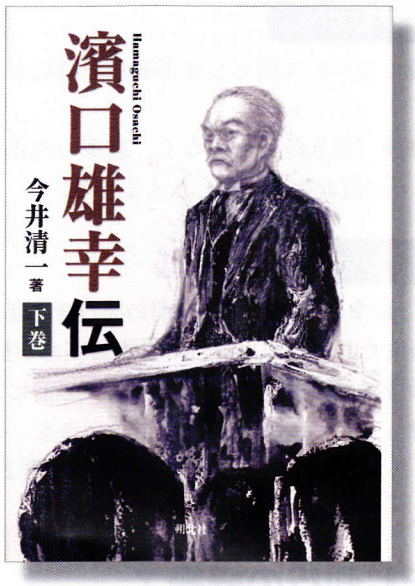
濱口雄幸伝 上・下

今井清一 著

四六判・上製・2013 年 12 月初旬刊行

上巻：480 頁・定価 2310 円（本体 2200 円＋税）／下巻：396 頁・定価 2100 円（本体 2000 円＋税）





【上巻目次】

第 1 章　生誕から大学卒業まで
第 2 章　官僚時代
第 3 章　同志会時代
第 4 章　憲政会在野時代（上）
第 5 章　憲政会在野時代（下）
第 6 章　蔵相時代（上）
第 7 章　蔵相時代（下）附内相時代
第 8 章　野党・民政党総裁時代

【下巻目次】

第 9 章　濱口内閣の成立と金解禁
第 10 章　ロンドン条約問題
第 11 章　遭難前後
むすびにかえて—政党政治家としての濱口の地位

こんな真摯堅実なリーダーが日本にもいた！

まっすぐに信じる道を進み、国民の信頼をえた稀有な政治家であり、激動の昭和初期に総理大臣を務めた、濱口雄幸の伝記。

非凡な指導力を発揮し、濱口雄幸は当時の重要な政治課題であった金解禁、ロンドン海軍軍縮条約を、野党の揚げ足取りや軍部・枢密院の激しい抵抗を抑えつつ、揺るがぬ信念と誠実な人柄から国民の厚い信望をえて、決断・実行した。ロンドン海軍軍縮条約に伴なう補充計画を仕上げた直後に東京駅で襲撃された—。

貴店印・貴館印 2013 年 12 月 1 日（日）ご注文分まで、新刊委託扱いとなります。	冊	**濱口雄幸伝　上巻** ISBN978-4-86085-104-0 ¥2200E　定価 2310 円
	冊	**濱口雄幸伝　下巻** ISBN978-4-86085-103-3 ¥2000E　定価 2100 円

朔北社　〒 101-0065　東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会本館 31 号室　TEL (03) 3263-0122　FAX (03) 3263-0156

‡この時代に、もし濱口雄幸がいたら…
今だからこそ読んで欲しい『濱口雄幸伝』‡

政治家としての生き様

難問山積で、政党間の激烈な対立・揚げ足取り・難癖のつけあいがとどまることを知らない状況は、当時も今と同じ。その中で濱口雄幸が如何に生き、活動したか？　政治家として直面している問題が深刻であるほど、真価を問われるはずである。当時も今も、存在意味に疑念が持たれるほど混迷を極める政党政治の当事者として濱口は、ときには説得によって、またときには強い意志を貫徹して、政策課題を実行した。ロンドン海軍軍縮条約に伴なう補充計画を仕上げた直後に東京駅で襲撃された。そのとき発したのが「男子の本懐である」という言葉である。

組織人・職業人として、人生をどう歩むか…

大蔵省時代に上司に直言したため、組織のなかの人間として不遇な一時期を堪え忍んだ。また出世よりは携わった仕事を大切にする生き方を貫いた。

政治家の人生を踏み出したとき、勅撰議員（貴族院）ではなく、選挙の洗礼をうける衆議院議員の道を選んだ。安易な道をとらず、正面から立ち向かう、真っ正直な生き方をした人である。

国民から信頼された、真摯堅実なリーダー

「葬儀が国民葬の観を呈し、『随感録』（濱口雄幸の随筆集）が空前の売行きを示したことは、それが政党政治の発展を意味し、そのためにこの代表的な政党政治家である濱口に対して世人の関心が集まったわけではなかった。（中略）世人が濱口を惜しんだのは、むしろ当時の政党政治が凋落し、政党は国民の前に自ら進むべき大道を確信をもって示す勇気に欠け、日本の前途には不安な雲が漂っていたからこそ、濱口のような、断乎として自己の責任を双肩に担って立とうとする真の政党政治家を待望して止まなかったのだといえよう。」（本書より）

‡原稿執筆と『濱口雄幸伝』刊行の経緯‡

始まりは、『丸山真男回顧談』の記述

『丸山真男回顧談』下（岩波書店）に、「親父は親父で、浜口雄幸の伝記を書くことを委嘱されて、浜口家から相当の金額をもらったのです。親父が老衰してしまったものだから、結局できなくて、ぼくに誰か紹介してくれというので今井清一くんを親父に紹介して、助けてもらった〔幼少時代を丸山邦男、その他は今井が執筆して完成し、丸山が目を通したが、丸山幹治は完成前に亡くなったこともあり、刊行にはいたらなかった。完成稿は浜口雄幸の遺族が所蔵し、そのコピーが、高知市の自由民権記念館に収められている〕。」とあり、この原稿の所在を今井清一氏に確認したところ今井氏が所蔵していることが判明した。そして原稿を通読した結果、濱口雄幸の人間と、政治家としての行動をつぶさに知ることができる、面白くてしかも優れた読み物であることがわかり、数十年ぶりに朔北社より刊行することになったのである。

その後、今井氏のもとに残っている資料を確認したところ、丸山幹治氏が戦時中の昭和１９年に作成した、濱口雄幸伝のための大量の記録が出てきた。丸山幹治氏は丸山真男の父で、著名なジャーナリストであり、『毎日新聞』の「余録」を昭和１２年から２８年まで執筆していた。現在わかっていることから推測すると、丸山幹治氏が戦中から進めていた濱口雄幸伝のための作業を昭和２８年ごろ今井氏が引き継いで、数年がかりで執筆・完成させたものである。

戦時中の作業からかぞえれば７０年近く経過し、原稿完成から数えても５０年以上経った今日、今日まさに読まれるべき内容の原稿が刊行されることになった。

著者紹介　今井清一（いまい・せいいち）

1924（大正 13）年群馬県生まれ。横浜市立大学名誉教授。横浜市立大学・湘南国際女子短期大学教授を歴任。『西園寺公と政局』（岩波書店）の編集にかかわり以後日本近代政治史を研究。また多年地域史研究に従事し、戦災と空襲を記録する運動に携わった。主な著書に『昭和史』（共著、岩波書店）、『日本の百年５成金天下』『日本の百年６震災にゆらぐ』（以上編著、筑摩書房）、『大正デモクラシー』（「日本の歴史」２３、中央公論社）、『日本近代史２』（岩波書店）、『大空襲５月 29 日』『横浜の関東大震災』（以上有隣堂）などがある。2010 年横浜文学賞、2013 年神奈川文化賞を受賞。